

平成29年度

社会人基礎力白書

大学生の就業力向上のために



公益社団法人 緑丘会



国立大学法人 小樽商科大学

平成29年度 社会人基礎力白書発刊にあたって
公益社団法人 緑丘会
理事長 島崎 憲明

平素は当法人の活動にご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

私どもは内閣府より公益社団法人移行認定を受け、平成24年4月1日付で、公益社団法人緑丘会として第2のスタートを切りました。本年も、公益社団法人の行う公益目的事業として、国立大学法人小樽商科大学のキャリア教育開発部門と連携して、大学生の「社会人基礎力」養成及び「就業力」育成のために、平成29年度版「社会人基礎力白書」を刊行させていただきました。

数年来、新卒者の入社後3年以内の早期離職率が高まっていることが問題視されており、学生と企業の価値観のミスマッチの解消が急務とされております。そのような中、学生の資質・能力に対する社会からの要請や、学生の多様化に伴う卒業後の職業生活などへの支援の必要性が高まっております。

経済産業省では平成18年より「社会人基礎力」の養成を目指した政策が推進されております。又、文部科学省においては、大学などが教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に関する指導などに取り組む体制を整えることについて、平成22年2月に「大学設置基準」が改正され、平成23年4月からすべての大学で取り組むことになり、各大学が教育課程内外にわたり大学生の「就業力」の育成などを目指す取り組みなどを総合的に支援するとしております。

これらの時代の流れを踏まえ、私ども公益社団法人緑丘会は、公益目的事業として、国立大学法人小樽商科大学が推進するキャリア開発教育および就職関連事業を支援しております。取り分け多くの学生が卒業後の人生において、自己実現を図ることのできる豊かな充実した職業生活を送る力である「社会人基礎力」、「就業力」養成の一助となるよう、毎事業年度における「社会人基礎力」の調査結果を纏めた「社会人基礎力白書」の刊行・公開事業を行って参りました。

しかし、近年の労働生産人口の減少等の環境の変化、企業側におけるAI(人工知能)やIOT(モノのインターネット)の導入による生産性向上の変革に適応するため、今回社会人基礎力養成白書も改編する運びとなりました。

今後とも内容の充実を図って参りますので、広く学生・企業・教育関係者の皆様にご高覧いただき、「社会人基礎力」の一層のご理解と向上に役立てていただければ幸いに存じます。

2017(平成 29)年度 社会人基礎力白書 Plus

第4次産業革命時代の 社会人基礎力

公益社団法人緑丘会



Basic skills through 2035 ~For integrating AI and human
ポストヒューマン世紀における中核的職業人材となるために



「社会人基礎力白書 Plus」について

公益社団法人緑丘会は、公益社団法人の主たる事業である公益目的事業として「学生の社会人基礎力養成事業」を行ってきました。「社会人基礎力白書」は、「企業と学生のミスマッチ」を可視化し、2006年頃より経済産業省及び経済団体を中心に課題とされてきた「新卒学生の3年以内の早期離職」の防止のために、各企業による求める社会人基礎力の優先順位の違いを情報として学生に提供することを成果として制作・発行・公表してきたものです。

しかし、近年の人口減少・少子高齢化・労働生産人口の減少による働き手の不足の恒常化により、学生の就職はバブル以来の売り手市場となり、環境は変貌して来ています。また、企業側の問題意識が変化してきていること、また、近年、AI(人工知能)やロボティクス技術、IOT(Internet of things=モノのインターネット)の指数関数的な進歩により、人間を代替することによる革命的な生産性の向上や効率性の実現が、経済界における最優先事項となっています。このようなパラダイムシフトに対応した社会人基礎力の養成ニーズは当然に高まり始めています。そのため、そのような時代・環境の激変に対応した新しい「社会人基礎力の姿」を提示する必要性が増してきました。

そのため、公益目的事業としての「社会人基礎力白書」の内容は大きく改編することとしました。

本年、2017(平成29)年については、その題名を、新時代の社会人基礎力を養成するための情報コンテンツとして、「社会人基礎力 Plus」として、不特定かつ多数の学生に対して発信を行うものとします。

「社会人基礎力白書 Plus2017」のコンテンツ

- 1 第4次産業革命時代(超 AI 時代)とは～今、何が起きているのか？
- 2 オックスフォード大学及び野村総研による職種別「人間から AI への代替率」データ
- 3 企業・業種別における AI・ロボティクスによる就業構造の転換例
- 4 第4次産業革命時代の社会人基礎力を学ぶために～推薦図書コーナー
- 5 第4次産業革命時代(超 AI 時代)に生存できる職業人の社会人基礎力を定義する。

1 第4次産業革命時代(超 AI 時代)とは～今、何が起きているのか？

今、何が起きているのか？ ～技術のブレークスルー～

- 実社会のあらゆる事業・情報が、データ化・ネットワークを通じて自由にやりとり可能に (IoT)
- 集まった大量のデータを分析し、新たな価値を生む形で利用可能に (ビッグデータ)
- 機械が自ら学習し、人間を超える高度な判断が可能に (人工知能 (AI))
- 多様かつ複雑な作業についても自動化が可能に (ロボット)

→ **これまで実現不可能とされていた社会の実現が可能に。**

これに伴い、産業構造や就業構造が劇的に変わる可能性。

データ量の増加

世界のデータ量は
2年ごとに倍増。

処理性能の向上

ハードウェアの性能は、
指数関数的に進化。

AIの非連続的進化

ディープラーニング等
によりAI技術が
非連続的に発展。

出典：「新産業構造ビジョン」一人ひとりの、世界の課題を解決する日本の未来 経済産業省

蒸気機関の登場による第1次産業革命は、従来の人手に頼ったあらゆる産業の機械化・工業化を促しました。それまでに存在した多くの作業がこれらの機械化によって代替され、失われていきました。代わりに機械産業など新しい産業が生まれてきました。第2次産業革命では、電力の活用により機械がさまざまな場所で使えるようになりました。第3次産業革命では、コンピュータの活用により情報を扱うことが可能になり、人の知能に関連するような作業も代替するようなことが可能になっています。これらのように産業革命は、キーテクノロジーにより産業構造そのものを大きく変革するということがあります。これはすなわち、それ以前に人間が行っていた作業を機械やシステムが代替して担うということが起こり得ます。そして新しい仕事や業務が生み出されていくことが発生するのです。第4次産業革命もビッグデータ・AI(人工知能)・IoT・ロボティクスをキーテクノロジーとし、産業構造の変革が起こると見られています。それにより、従来あった仕事が失われ、新たな仕事が生まれるというわけです。そうなっていくと当然に、職業人としての社会人基礎力等の能力のあり方もイノベーションが求められてくることとなります。また、今までは必要とされていた能力、職業、職種などの存在も必要がなくなったり、自然消滅の結果となるような事態が起こってきます。19世紀においては、仕事は「人間の筋肉と家畜の助け」によって行われ、20世紀は、「人間の知性」によって推進されましたが、第4次産業革命時代である21世紀は、「人機一体(人間とハイテク機器の一体化)」により行われることになるのです。そうすると、現在、20～21歳の年代である現役学生は「Digital Nature 世代」として、「人機一体経営」を司る社会人基礎力を身につけ強化していく必要があります。